

モーリシャス豆知識・小話 第19号

2018年11月
在モーリシャス日本国大使館

(1) 渋滞緩和プロジェクトが新たな渋滞を巻き起こす！？



現在、モーリシャスでは渋滞緩和プロジェクトとして高架橋、バイパス、橋梁、更に今後は当国初の自動車用トンネルの掘削と、公共事業が目白押しですね。それに加えてメトロエクスプレスの建設が進んでおり、なんだか逆に渋滞に拍車がかかっているような。まあ、全てのプロジェクトが完了した暁にはこうした渋滞は消えてなくなるはず。毎朝そういう希望を持ってハンドルを握るドライバーはきっと多いことでしょう。

そうしたプロジェクトの一つが先週完成しました。ポートルイス市入り口を南北に貫く高速道路のスムーズな流れを断ち切らないように、これまで渋滞の原因になっていた南から中心部に入る交差点での右折を避けるための高架橋です。南から入ってくる車両はその交差点の手前でこの橋に進入し、交差点を横切らず直接市内中心部に入れるようになりました。その名も Decaen Fly-over！昨年10月に始まったモーリシャスにしては突貫工事でできあがり、私も朝の通勤に早速使っています。

これで渋滞ともおさらば、と言いたいところですが、結局その先が渋滞しているのですね。所詮ポートルイス市自体が、走っている車の交通量の割には小さいということです。そういえばこの橋も、あまり使われていないような。よく見たら、橋ができた後もくだんの交差点が使われているではないですか！相変わらず多くの車がそっちを通っていて、朝の通勤ラッシュ時にはこれまた相変わらずお巡りさんが交通整理に出ています。

うーん、3.4億ルピーの建設費がかかったこの橋の存在価値とはいったい何なのでしょう？ いっそポートルイス市内は車両乗り入れ禁止、それこそ路面電車でも走らせたらいいのではないか。そうした自問自答を繰り返しつつ、毎朝この高架橋の緩やかなカーブに合わせてハンドルを切っている私です。

(2) 求む、外国人労働者



日本では現在、外国人労働者の受入を拡大する出入国管理・難民認定法(入管難民法)改正案が国会で審議されているのは皆さんご存じかと思います。政府は2019年度から5年間で、最大約34万人の外国人労働者を受け入れる方向で最終調整しているようです。この数字、多いのでしょうか、あるいはまだまだ少ないのでしょうか。

翻ってモーリシャス。このコラムでも既にご紹介したとおり、この国の経済は、昔は中国人、今はバングラデシュ人を中心とした外国人労働者に依存しており、彼らは最早なくてはならない存在です。報道によると、若年層を中心に4万人の失業者がいる反面、外国人労働者の需要は増える一方。特にモーリシャス若年層の3K労働に対する敬遠、技能労働者不足等のミスマッチで、政府は本年度、外国人労働者の8年間の就労ビザの取得緩和等の対策を考えているようです。ただ、今でも縫製工場、建設現場では多くを外国人労働者に頼っており、その生産スケジュール等もそうした労働力確保次第というところも。劣悪な待遇で問題になることもあるようですが、労働者の受入れそのものには、やはりお国柄か、国民の間で一定のコンセンサスがあるようです。

日本では今後外国人労働者が増えると、治安、社会保障の問題等でどのような状況になるか危惧する向きもあるようで、確かにそうした負の側面があることは欧州の状況も見ればよくわかります。一方で少子高齢化が進む日本で、社会の活力を維持する上でこの問題は避けて通れません。訪日外国人観光客の増加に加え、上記改正案が実施されることで、日本の近未来の風景は今後否応なく変わって行くことでしょう。この先どういう未来が待っているのか、この虹色の国家の移民労働の記事を読んでいた私は、いつの間にか我が日本の今後に思いを巡らせていました。